

2004年度物理カリキュラム委員長への申し送り事項

2003年度物理カリキュラム委員長
山中 卓

2004年6月9日

1 役割

- 来年度のカリキュラムを決める
 - － 担当教官を決める。
 - － 共通教育、学部、大学院も含め、誰が何を担当するか、データベースに入力。
 - － 時間割を決める
 - － 教室を確保する。
 - － 上と同じデータベースを用い、シラバスを作る。(ただし、他の人がしてもよい)
- 4年の研究室の配属
- 物理学セミナー2と来年度の物理学セミナー1の担当を決め、内容を募集、学生の希望を聞いて配属を決める。
- 二重聴講の承認
- 単位をよく落としている学生のモニター

2 課題

- 4年配属のルール
 - － 前回の経験をふまえて、ルールをより詰める。
 - － そのルールを教室会議で説明し、最終案を作る。
 - － 進級判定の作業自体も、カリキュラム委員長だけではなく、他の人のチェックがあったほうがよい。

- コア科目物理学1、2

- － 3クラスの間でも、教える内容やレベルが大きく異なった。従って、2年の「電磁気学1」になった段階で、習っていると前提とされていたことを習っていない学生が出た。
- － 共通の試験ではないので、相対評価がしにくい。また、この成績を演義のクラス分けに使うことは難しい。

- 演義

- － スタンダードとアドバンストを分ける意義があるかどうか。
- － 機械的にクラスを分けることの是非
- － 改善すべき点
- － 上の点などについて、現場演義の担当者の意見を聞き、方針を決めたほうがよい。(後期が始まる前)

- 解析力学

- － 力学1である程度、量子力学に必要な程度の解析力学を学ぶので、「解析力学」の授業の範囲がより高度になるであろう。この骨子を決める必要がある。
- － 平成12年度以前に入学した学生は、「解析力学」が2年の前期に必修科目としてあった。従って、これらの学生に対しては、新しい「解析力学」は本来のレベルより高度になる。この点をどうするかも検討する必要がある。(ただし、H12以前の学生で解析力学をまだ履修していない学生が実質何人いるかにもよっても、対応は変えうる。)

3 申し送り事項

- 基本的には、佐々木氏の申し送り事項そのまま。

- 「宇宙地球野外実習1、2、3」

宇宙地球科学野外実習1、3を前期に隔年で、宇宙地球科学野外実習2は単年度で3・4年生を対象に開講する。(各科目1単位とする)2004年度は野外実習1と2を開講したので、2005年度は3と2を開講。実習で3単位まで取る事はできる。

- 二重聴講

- － 二重聴講は、専門科目の必修どうして、かつ過去に片方の試験を受けたが単位が取れなかった場合のみ。関わる二つの授業の担当教官とカリキュラム委員長の承認が必要。
- － 演義が重なり、演義に出席しない場合は、演義の宿題を毎回提出させるなどの措置が望ましい。
- － 2重聴講を頼みに来た学生には、他の単位の状況も聞いたほうがよい。これによって、よりその学生を把握できる。

- ODINS 係
ODINS の担当は、授業 1 コマ相当として扱っている。しかし、2004 年度から ODINS 係になった浅野氏は、学部の授業を 2 つ、大学院の授業を 1 つ持っており、ODINS と合わせて 4 コマ分となる。この点の検討が必要。
- 秘密の大事なお仕事をしている人もいるので、誰の担当科目数を減らすべきかは、専攻長などに前もって確認しておくべし。
- 「一般相対性理論」
2004 年度のこの講義は、太田氏に「2005 年度引き続いてやるかどうかは、決めない、という条件のもとで」無理に引き受けてもらった。これは高原氏、細谷氏をはじめ、いろいろとできる人はいるので、2005 年度は検討が必要。
- 「量子力学 1、2」
慣例として、「量子力学 1」を教えた人は「量子力学 2」に持ち上がる。
小川氏は、しばらく「量子力学 1 と 2」を担当したいとのこと。(11/21/03)
- 「量子力学特論 3」
これは大学院専用とし、学部では開講しない。(10/23/03 のカリキュラム委員会決定)
- 「物理数学 2」
菊池氏は「物理数学 2」を 2001~2003 年度の 3 年間やったので、卒業のはずであったが、候補者の浅井氏が着任早々の 1 学期になるので、2004 年度だけ、もう一年菊池氏にやってもらった。
- 「電磁気学 1」
2004 年度に内容が大幅に変わったので、横山氏は 2004 年度を初年度としてしばらく続けさせてほしいとの事。
- 演義／演習の代表教官と成績
演義／演習には、2 人の教官が割り当てられているが、シラバスに書かれている初めの人を、「代表教官」とする。成績の記入票は、代表教官にのみ送られるので、代表教官の責任で演義／演習の二クラスの成績を記入し、教務に提出してもらう。教務掛は、学生がどちらのクラスに属しているかは区別しないので、担当の教員が把握しておく必要がある。(どちらのクラスに入っているか、教務掛が把握し、学務情報システムに反映させるのがかなり煩雑だったため)
- 3 年の物理学実験の履修条件について (4/14/03)
 1. 入学年度の学生便覧に書かれたルールに従うべく、これからだんだんと厳しくしていく。そのことを、学生にも周知する。
 2. ただし、今年度から急に厳密に適用するのも無理があるので、昨年度よりは厳格にするが、ある程度の余裕は認める。
 3. 既に学生実験の履修条件の単位について疑問のある人は杉山氏のところに来るようという掲示が出ているので、2) の方針に従って可能と判断できる人については学生実験の履修を許す。

4. 杉山氏が判断に苦しむ人については、本人に再建計画を作らせてカリキュラム委員長に相談に来させる。カリキュラム委員長はその計画と学生を見て、学生実験の履修の可否を決める。
 5. 1) の周知の内容と方法、および来年度の学生実験の履修条件については、これからカリキュラム委員会で決めていく。
- 指定外の外国語の単位について
次の学生の外国語の単位は、学生便覧の別表1に含まれていないものであり、このままだと、これは卒業に必要な単位とは認定されない。共通教育と話し、別表1と内容がさほど変わらないものであれば、読み替えの操作を行うなどの措置が必要。

入学年度	学生コード	氏名	問題の科目	備考
1998	40260090	森田 智之	英語 510A2	(2003年度は休学)
1999	40231058	西本 雅志	英語 520A	(2004年度、4年生)
1999	40231075	松尾 行浩	英語 510B2	(2004年度、4年生)

- その他の、各々の学生については、別紙参照のこと。